

授業概要

子どもを取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについて感性、知識、技能を身に付けることを目標にする。子どもが主体的に環境に関わることを考え、保育者としての環境設定について考える。家庭、保育所、幼稚園、保護者、友達、保育者といった身近な環境から、広く大きくマクロ的な環境とのかかわりを考えていく。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業のねらい、到達目標、評価等についてのガイダンス）
第 2 回	子どもにとっての人的環境、物的環境、社会的環境について考える。
第 3 回	子どもが主体的な環境との関わりを間接教育の視点から考える。
第 4 回	子どもが主体的な環境との関わりを誘導保育の視点から考える。
第 5 回	子どもにとって身近な自然を大学周辺部の自然から捉える。
第 6 回	子どもにとって身近な動植物について映像教材から学ぶ。
第 7 回	地域行事が子どもにとってどのような意味を持つかについて考える。
第 8 回	異文化体験について事例・映像教材から学び、合わせて日本の文化について考える。
第 9 回	伝承遊び等を実際に体験することにより、子どもの感性を理解する。
第 10 回	地球環境問題を子どもの視線でとらえる。
第 11 回	子どもが興味を持つ文字、標識等を地域から探る。
第 12 回	日常生活から自然の変化を探り、子どもにとっての季節の意味を考える。
第 13 回	子どもの安全と環境との関係を事例を通して考察する。
第 14 回	子どもたちの取り巻く環境を、家庭、地域、施設の視点から考える。
第 15 回	現代の子どもを取り巻く環境に関する問題
第 16 回	まとめおよび試験

到達目標

保育の環境を身近な問題からマクロ的問題へと整理して理解できる
子どもを囲む環境として家庭、地域、保育所、幼稚園といった構造を理解できる
子どもを囲む環境の変化への対応を理解できる

履修上の注意

定時に出席を取る。遅刻は30分以内までの者とする。電車の遅延などは、大きな事故などの例外を除いて原則認めない。

予習・復習

予習としては、幼稚園教育要領、保育所保育指針の「環境」にあたる箇所をよく読んでおくこと。復習としては、保育の総合性を念頭に各領域との総合的に関連づけること。

評価方法

筆記試験の結果 70%、授業態度 30%とする。欠席が3分の1を超える学生は受験資格がないので留意すること。

テキスト

- 教科書名：子どもと環境
- 著者名：浅見均
- 出版社名：大学図書出版
- 出版年 (ISBN)：978-4-909655-23-3